

## 特 集

# ～ 4年ぶりの文化の祭典～ 第6回マニラ日本人会文化祭

7月23日（日）13時からRCBC Plazaの4階ホールで4年ぶりに文化祭が開催された。（編集委員 AW）

機会を待ちわびた13組の演者が4時間に亘って、パフォーマンスを繰り広げた。会場は、演者の家族や日本文化に興味を持つフィリピン人も訪れ、常に満員の状況であった。

マニラ・エクスプレスは、まにら新聞でも紹介されているように、コロナ禍が収まった昨年末以降、マニラのモール等で不定期にライブ活動をしているが、トップ

バッターとして文化祭を盛り上げるにふさわしい演奏だった。オリジナル曲の「ラララ・マニラ」の詞は、マニラで生活する我々にとっては、なるほどとうなずける内容で、とても楽しめた。

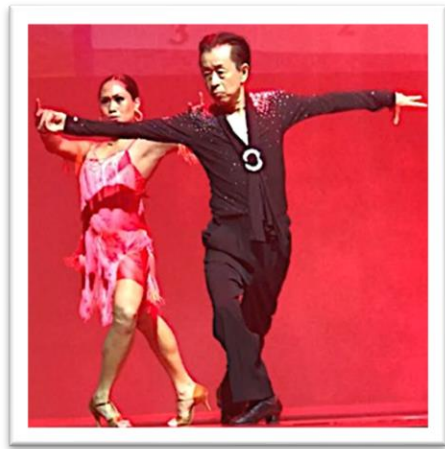




マニラ・エクスプレスは、フィリピン人アイドル、トライライトの日本語楽曲の演奏も担当。観客がほぼ日本人という中で緊張気味のトライライトをバックでサポートし、一緒に最高の舞台を作り上げてくれていた。

マニラ・エクスプレスのメンバー宮地正人さんは、社交ダンスでもパートナーのチェチェ・ジャミリさんと共に観客を魅了した。

今年5月に英国で開催された「世界最高峰の社交ダンス大会」ブラックプール・ダンスフェスティバルに参加し、出場した各部門で優勝された実力を遺憾なく発揮され、ラテン5ダンス（チャチャチャ、サンバ、ルンバ、パソドブレ、ジャイブ）をメドレーで披露した。



マニラ室内合奏団は、バイオリンとピアノのアンサンブルによるクラシックの選曲。落ち着いた雰囲気、心地良い響きが観客を包み込んだ。



代表を務めるバイオリニストの長江 英樹さんは、「バイオリン、ビオラ、チェロを交えて弦楽四重奏（カルテット）での編成が揃えばおおかたの曲目も対応できますし、メンバーを増やして活動の幅を広げてゆきたいです。入団希望の方はご連絡頂きたい」と意気込みを語った。

（連絡先：長江 E-mail: [hidekinagae7@gmail.com](mailto:hidekinagae7@gmail.com)）

日本人会としてコロナ禍後、最初の大きなパフォーマンスの場となった盆踊り大会、そして2月にあったアジア男声合唱祭（アジア祭）に引き続き、下記の団体が、今回の文化祭にも出演。

- ・ドリームガールズ&ボーイズ
- ・ラ・メール（女声合唱団）
- ・MJS和太鼓スペシャルチーム
- ・マナワレア（フラダンス）
- ・マニラグリークラブ（男性合唱団）
- ・リブダンスアカデミー&エンターテイメント



ドリームガールズ&ボーイズのダンスの様子

どの団体もアジ祭が開催された2月や盆踊りが行われた3月から数カ月を経て、新たなメンバーの加入もあり、パワーアップしたパフォーマンスを披露してくれた。

MJS和太鼓スペシャルチームは、新メンバーが太鼓曲を披露した。その際使われた太鼓は、6月にフィリピン公演を行った和太鼓グループ「倭（やまと）」から寄贈されたもの。



編集委員 AII のつぶやき…



私は、フィリピンで剣道を行っているが、昨年来、駐在員の子供たちが剣道を習いたいと剣道クラブに来てくれており、一緒に週末、剣道の稽古をしている。その子供たちが、ドリームガールズ&ボーイズ、マナワレア、リブダンスアカデミー&エンターテイメントでダンスを習っており、彼らの剣道以外のパフォーマンスを見られたことも、本当に貴重な機会だった。彼らが、いろいろな事に興味を持ち、日本だけではなく、フィリピンの文化にも触れ、元気に、そして真剣にチャレンジしている姿を目の当たりにでき、実に頼もしいと感じた。





続いて登場したのは堀越祐樹さん。吉本興業の「住みます芸人」プロジェクトで2016年からフィリピンでタガログ語を学び、それを使ってフィリピン人に対してお笑いの伝導活動をしている。「日本人の名前」と同じ響きを持つタガログ語が「別の意味」を持つことを紹介しながら、(マサキは、Masakitで「痛い」の意味。「マサキ、マサキ」と大声で呼びかけると、周囲の人が気遣って「どこが痛いんだ」と救急車を呼ばれるかも…など) 漫画絵を交えて、笑いをとっていた。フィリピン在住7年、タガログ語を操れる唯一無二の日本人芸人のパフォーマンスを十分に堪能できた。



抒情豊かに4曲を歌い上げた  
ラ・メール

新メンバーが加入した  
現役と日本から駆け付けた  
OBが息の合った  
アカペラを披露したマ  
ニラグリークラブ



8歳から13歳の子供達が穏やかな風や波を感じさせるフラを披露したマナワレア

日本人パフォーマーに交じって、3組のフィリピン人パフォーマーも参加して下さった。

1 組目は先に紹介したフィリピン人アイドルトライライトでモーニング娘の歌を3曲元気に披露してくれた。



2人目の **Ms. Sharilla Cerilles** は、2016年14歳でフィリピン版の「ドラえもん」の主題歌歌手に抜擢され、デビューした正統派の歌手。現在、若干18歳だが、YouTubeを中心に活動中。2018年にはフィリピンの有名なシンガーソングライターYeng Constantinoさんのヒット曲「Ikaw」の日本語版をリリースし、Facebook上で話題となり、現在、6百万回再生を突破しているという。彼女はフィリピンで最も有名なアニメで、最近実写化された“ボルテスV”の主題歌を皮切りに、MISIAの曲

「アイノカタチ」をMISIA顔負けの声量で、更に山口百恵を知っている世代には思い出深い「さよならの向こう側」を切々と歌い上げ、最後にフィリピンの曲「Ikaw」を日本語とタガログ語で歌い切った。



そして3組目は **Zuniega 兄弟**。お兄さんがフィリピンで有名なピアニスト Mr. Josue Greg Zuniega（現 Philippine High School for the Arts (PHSA) の校長）、歌うのは弁護士の弟 Attorney Josue Sim Zuniega（日系人の福祉向上への貢献により、今年4月21日、日本国政府を代表して越川和彦大使から旭日単光章の叙勲伝達を受ける）という兄弟デュオ。歌とピアノ、更に曲に合わせてバレエダンサーのペアがダンス・パフォーマンスで演出し、観客を魅了した。



今回の文化祭は4年ぶりということもあり、日本人会ボランティアも経験者が少ない中ではあったものの、念入りな準備の下、まるでMCを務めたオレンジフィットネスクラブの2人（Shouheiさん、Senaさん）の胸筋の如く、非常に盛り上がった文化祭となった。





最後をキレのあるダンスで締めてくれた  
リブダンス・アカデミー&エンターテイメント



# 第6回 マニラ日本人会文化祭

## 第1部

### 開会式

#### マニラ・エクスプレス

マニラ屋敷、いとしのエリー、  
きよしのズンドコ節、ラララ・マニラ

#### マニラ室内合奏団

セザール・フランク  
バイオリンソナタ第4楽章、  
ヨハネス・ブラームス  
バイオリンソナタ第2番第1楽章

#### トライライト

Love マシーン、大声ダイヤモンド、  
可愛くてごめん

## 第2部

#### ドリームガールズ&ボーイズ

More Than Friends, Zuka Zama,  
Runaway Baby, Girlfriend, Applause

#### フィリピン住みます芸人 堀越

日本人の名前っぽいタガログ語

#### ラ・メール

ふるさと、Gaano Kita Manamahal,  
最愛、いのちの歌

#### マニラ日本人社交ダンス部

ラテン5ダンス(チャチャチャ、サンバ、  
ルンバ、パソドブレ、ジャイブ)

#### シャルラ・セリレス

ボルテスV、さよならの向う側、  
アイノカタチ、君という今

## 第3部

#### MJS 和太鼓スペシャルチーム

万雷、楽音

#### マナワレア

マイトルグラスシャック イン ケアラケア ハワイ、  
ヘアロハノオホノルル、虹を

#### マニラグリークラブ

マニラグリークラブ団歌、So Much in Love、  
I've got Six Pence、帆船の子、銀河鉄道 999

#### ズニエガ兄弟

緑の街、春のメドレー、Araw Gabi

#### リブダンスアカデミー & エンターテイメント

ジュニア HIPHOP 初級・リトルキッズ DANCE・  
ガールズ KPOP・ジュニア HIPHOP 入門・  
リブダンスチア・ジュニア HIPHOP 中級の6チーム

